

見沼田圃基本計画 アクションプランとは？

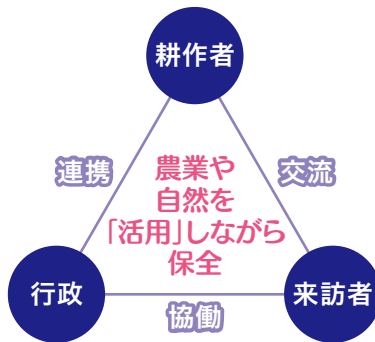
見沼たんぼを未来に残していくため、分野ごとの具体的な施策をまとめた「さいたま市見沼田圃基本計画」。そこからさらに、特に重点的に進めていく施策の具体的な方法をまとめたアクションプランを平成29年度に策定。どのような取組が行われているのかをご紹介します。

見沼田圃づくりの
テーマ

農・自然・歴史と
ふれあう、
憩いのふるさと
“みぬま”

見沼田圃の将来像

- 1 農を元気にする**
首都圏に位置するメリットを活かした
元気で魅力ある農が行われています
- 2 地域を楽しむ**
首都圏各地から大勢の人が見沼田圃を
訪れています
- 3 心を豊かにする**
多くの人々が健康で豊かなライフスタイル
を楽しんでいます
- 4 子どもを育てる**
子どもたちが見沼田圃で様々なことを
学んでいます
- 5 みどりを増やす**
見沼田圃の中に緑地や水辺など市民の
憩える場所が増えています
- 6 地球環境を守る**
農地、斜面林、水辺空間など貴重な
自然環境が守られています



見沼田圃基本計画アクションプランの一例

●遊休農地解消の推進

優良農地の確保・有効活用を図るため、遊休農地の発生防止・解消に向けた取組を行います。

●学校教育ファーム・市民農園整備事業

児童生徒が農業を体験できる学校教育ファームの実施や、市民が自然に親しみながら農業を体験できる市民農園の整備をします。



●公開型緑地の整備

見沼代用水と一体となった斜面林を活用し、散策路や休憩施設などを備えた水と緑に親しむことのできる公開型緑地を整備します。

●歴史的資源の活用

貴重な歴史的資源である見沼通船堀や鈴木家住宅を始めとする見沼たんぼ周辺の文化財への案内看板を設置し、憩える場所として歴史・文化遺産の活用を図ります。

●さいたまーチ ～見沼ソーデーウォーク～

毎年、3月末に見沼たんぼの自然環境や地域資源を広く紹介するとともに、自然に親しみ、豊かな心と身体の健康づくりを目指すウォーキングイベントを開催します。

今年も開催！ さいたまーチ～見沼ソーデーウォーク～

散策できる日本一の桜回廊などを楽しく歩こう！
2日間歩いた方には、見沼たんぼ産のお米を2合贈呈

- 日程** 平成31年3月30日(土)、31日(日) (雨天決行)
- 場所** さいたま新都心及び見沼たんぼ周辺
- スタート・ゴール会場** さいたま新都心公園(JRさいたま新都心駅東口徒歩8分)
- 参加費** 当日申込: 大人2,000円、小・中・高1,000円
- 申込方法** 当日、会場にて受付(先着順)
- 問合せ** エントリー事務局 0120-711-951 10:00～17:30(土日祝休)



見沼たんぼ年表

縄文時代～中世	見沼たんぼは、今から6000年前は東京湾の海水が入り込む入江だった。やがて海岸線が後退し、沼や湿地に。
1629年(寛永6年)	かんとう ぐんたい い なただほる 関東郡代伊奈忠治が、新田の農業用水を確保するため、現在の川口市木曾呂からさいたま市緑区大間木の間に堤を築き、芝川の水をせき止めて巨大なため池(見沼溜井)を作った。
1727年(享保12年)	いざわ や そ べ えためなが 徳川吉宗の命で井沢弥惣兵衛為永が、新たに利根川から水を引き、見沼代用水を作り、見沼溜井は干拓して新田に。こうして、見沼たんぼが誕生した。
1958年(昭和33年)	台風22号により芝川下流域が大きな被害を受けた。この時、見沼たんぼには1千万トンもの貯水量があったと言われ、下流域の被害を抑える役割を果たした。
1965年(昭和40年)	見沼たんぼの遊水機能が注目され、見沼たんぼの宅地化を原則として認めない「見沼田圃農地転用方針(見沼三原則)」が制定され、治水上の観点から開発抑制案が講じられた。
1995年(平成7年)	見沼三原則に代わる新たな方針として「見沼田圃の保全・創造・活用の基本方針」が策定された。この方針では、見沼たんぼの治水機能を保持しつつ、農地、公園、緑地などに利用することとし、それに必要な施策を実施している。

始まりは江戸時代？

見沼たんぼの歴史を学ぼう

見沼たんぼはいつから緑地空間となったのでしょうか。改めて歴史をおさらいしてから見沼たんぼを歩けば、また違った景色が見えてくるかもしれません。



昭和の見沼たんぼの様子。戦後の食料増産を支えた。(写真:さいたま市立浦和博物館)



見沼たんぼの生みの親・井沢弥惣兵衛為永の銅像は、見沼自然公園の芝生広場にある。

周辺の歴史スポットをめぐる

MAP は、1-2 ページにあります。



ばんぼ おむろやまいせき 馬場小室山遺跡 MAP A

大宮台地と呼ばれる高台の上にある、縄文時代早期から晩期までの集落跡。昭和44年以降、発掘調査が積み重ねられ、縄文時代中期以降、この地域の中心となる遺跡の一つである。現在の見沼は海岸沿いに形成された集落と考えられている。県指定文化財の土偶装飾土器・人面画土器など、多くの遺物が出土し、さいたま市立浦和博物館などに保存されている。

📍さいたま市緑区三室2015ほか



見沼通船堀 MAP B

この地域から江戸に米や産物を運ぶため、見沼代用水東縁、西縁、芝川を繋いだ運河。見沼代用水と芝川の高差があったため、閘門(水門)を使って水位を調整しながら通船させる閘門式運河を採用。パナマ運河よりも180年早く実用化された。見沼通船堀の東西各2箇所に閘門を設け、水位を上下させ、船を通した。これにより、江戸との流通が活発になった。

📍さいたま市緑区大間木・下山口新田付近



旧坂東家住宅 見沼くらしっく館 MAP C

加田屋新田を開き名主を務めた坂東家の、江戸時代末期(安政3年)に建てられた古民家を復元保存している博物館で、正面に式台のついた玄関、その奥に六間を持ち、うまや、厠、湯殿などを備えている。当時の農家の暮らしがうかがえる。季節の行事を再現したり、それにちなんだ展示を行ったり、体験教室なども開催されている。

📍さいたま市見沼区片柳1266-2
☎048-688-3330 ☎9:00～16:30
🌞月曜(祝日は除く)・祝日の翌平日ほか
🆓無料



氷川女體神社 MAP D

建立は奈良時代とされ、一説によると、大宮の氷川神社、見沼区中川にある中山神社と一直線上にあり、3社を合わせて武蔵国一宮とされていたと。また、大宮氷川神社の主祭神が須佐之男命で男体社、こちらの主祭神は奇稲田姫命で女体社にあたる説もある。江戸時代に建立された社殿は、県指定有形文化財に指定されている。

📍さいたま市緑区宮本2-17-1